

## 1 情報化の推進について

- (1) 総合内部事務システムは、昨年9月議会の本会議質疑の答弁で「平成25年度に稼働し31年度末に更新時期を迎えるため、新システムへの更新と現行システムの継続使用の両面から情報収集と比較検討を行ってきた。平成30年度中には方向性を決定し、更新に向けた準備作業に着手したい」とあったが、現行システム継続と新システム更新の比較検討と評価、システム再構築のスケジュール、導入費用と事業者選定、課題・問題点は。
- (2) 令和2年1月14日をもって「Windows 7のサポート」が終了する。庁内パソコンの現状と対応状況は。併せて課題・問題点は。
- (3) 「磐田市情報化計画2017」は、平成29年度から5カ年の計画で、社会の変化に迅速かつ的確に対応し、本市のまちづくりの目標実現を支えるため、国・県のICT政策の動向や本市を取り巻く状況、市民ニーズ等を考慮しながら策定したとある。情報化計画の進捗状況と評価、令和元年度、2年度の計画は。
- (4) 平成28年10月に県内で初めて電子図書館システムを導入した。電子書籍サービスでは電子化した地域資料と商用コンテンツの2種類を提供し、30年度の閲覧・貸出総数は増加傾向にあると聞く。認知度も十分でない中で、利用者ニーズの把握に努め更なる飛躍を目指している。地域資料の電子化を含むこれまでの取り組みと実績の評価、今後の予定、課題・問題点は。また、電子図書館システムの充実や更新などの動きは。
- (5) 文部科学省は、6月に令和7年度(2025)までの「小中高校などのICT活用の工程表」を示した。「児童生徒1人1台、教育用のパソコンやタブレット端末が利用できる環境を整え教育関連のビッグデータも利用して情報化社会で求められる人材を育てる」とある。工程表の基本的な考えと方向性は。
- (6) 文部科学省は、8月に学校配備の教育用パソコン1台当たりの児童生徒数を県内市町ごとに公表した。3月時点の磐田市及び周辺市町のパソコンやタブレット端末の配備状況、小中学校におけるICT活用の現状の評価、課題・問題点は。

- (7) 文部科学省は、学校でのデジタル技術の活用を推進するため、補助金制度を創設し、令和2年度から3年間で小中高全ての教室に、超高速・大容量の無線通信環境の整備を目指し、学校の取り組みを促している。超高速・大容量の無線通信環境整備について、基本的な考えと今後の方向性、課題・問題点は。
- (8) 小中学校は、新学習指導要領の移行に伴いプログラミング教育がスタートする。昨年11月議会の代表質問の答弁で、課題として、「新たな教育内容であり、さらなる研修が必要となる。コンピューター教育研究委員会を中心に各学校で実施方法の研究を進めており、平成31年度は教員を対象にした研修会を計画している。32年度の本格実施の際には、ICTアシスタントや外部人材等の支援を受けながら進めていきたい」とあった。5月に公表した文部科学省の調査結果では、「プログラミング教育で、学校や地域間で教育格差を懸念する声が出ている」とあるが改めて伺う。プログラミング教育の教員を対象にした人材育成の取り組み状況と評価、本番を前にしてのICTアシスタントや外部人材等の支援準備状況や今後の予定は。

## 2 安心・安全について

- (1) 平成20年4月から特定健康診査が始まり、平成21年11月の代表質問の答弁で、受診の現状と受診率の向上施策について、「平成24年度の目標率65%に向けて未受診者対策を実施することが重要で、受診しやすい健診会場等の再検討をしていく。健診の周知徹底のため、自治会などの関係機関との連携を図り、受診者の増加に努めていきたい」とあった。国は、令和2年度から特定健康診査の実施率が低いなど、病気予防や健康づくりの取り組みが遅れている自治体を対象に交付金を減らす方針でいる。特定健康診査の受診率の推移と評価、磐田市に及ぼす影響、受診率向上施策と今後の取り組み、課題・問題点は。

- (2) 防災行政無線のデジタル化工事は、平成28年度から始め今年度中に完了予定である。この工事の屋外子局の地区別見直し状況とデジタル化工事に伴う効果は。

### 3 防潮堤整備事業について

防潮堤整備工事は、平成26年度から着手した。全長約11km、高さ14m、工事費約30億円、工事期間約20年間の目標を掲げ、課題の土の量も必要量約315万 $\text{m}^3$ が確保できスタートした。この間、懸案の枯損していない松がある海岸防災林工区について、国と県との協議が整い、大きな課題もなくなった。そこで、

- (1) 防潮堤整備工事の区間全体約11kmの進捗状況と竜洋海洋公園工区における進捗状況と工事完成見通しは。
- (2) 防潮堤整備工事における工事期間約20年間の土の必要量約315万 $\text{m}^3$ について、工事が早まった場合、工事の進捗と土の量確保との関係の考えは。
- (3) 防潮堤整備の工事区間は、太平洋岸自転車道と併行している。これまでの県との協議内容、具体的にどのような方法でどのような対応を取りながら実施するのか考えは。
- (4) 太平洋岸自転車道推進協議会では、年内にホームページを開設し、自転車道のルート、案内看板の位置、観光やイベント情報を掲載し情報発信の統一性を図るとのこと。推進協議会との連絡や連携の考えは。
- (5) 昨年9月の台風24号により、大中瀬地先の防潮堤が約150mに亘って損壊したが、防潮堤損壊箇所の復旧工事の進捗状況は。
- (6) 3月の遠州灘沿岸侵食対策検討委員会では、「竜洋海岸は海岸侵食が著しく養浜により砂浜の早期回復を図る必要がある」と指摘している。遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会では、毎年、国や県に侵食対策などの陳情を重ねているが、竜洋海岸の砂浜の早期回復に向けた具体的な取り組み状況とここ数年の実績、今年度を含む今後の見通し、課題は。

#### 4 竜洋地区の諸課題について

##### (1) 竜洋海洋公園第3期整備事業

- ① 竜洋海洋公園の第3期整備事業の区域は約18.8haあるが、防潮堤整備事業区域と重なるため休止中である。事業認可の休止期限の5年が近づいているが今後の予定は。

##### (2) 堀之内駒場線整備事業

- ① 幹線道路整備事業の堀之内駒場線は、現在、工事が中断している。残りの区間について、事業の今後の計画と完成見通しは。